

# Qanat Universe エージェント

(奉行 V ERP クラウド)

## 共有サーバのフォルダを参照するための 設定手順書

2025/04 版

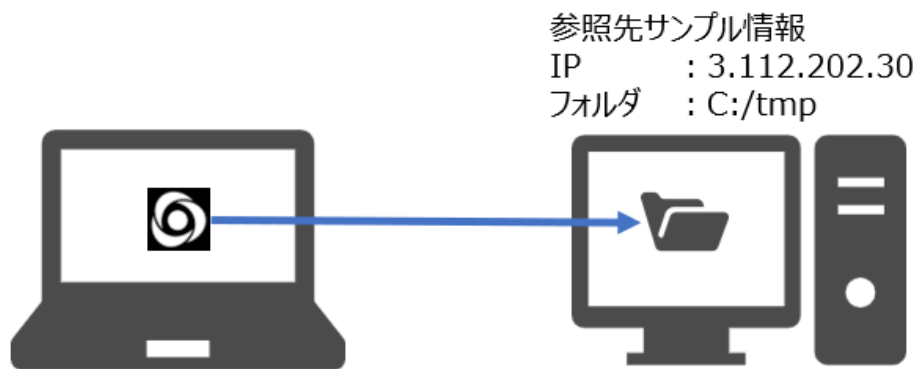
## 内容

はじめに .....	3
1. 環境 1、環境 2 に共通するユーザーを作成 .....	4
2. 環境 2 にて共有設定を実施 .....	9
3. 環境 1 にて Qanat Universe エージェントから参照するための設定を実施 .....	12

## はじめに

本書では Qanat Universe エージェント（奉行 V ERP クラウド）から外部の Windows 環境（クライアント PC、サーバー OS）にあるフォルダを参照するための設定手順について説明します。

本書での構成は下記になっております。



### 環境1

Qanat Universe エージェントの導入環境

### 環境2

参照先フォルダ（tmp フォルダ）がある環境

以降、Qanat Universe エージェントの導入先を環境 1、参照先フォルダがある環境を環境 2 として説明します。

大きな手順は以下となります。

1. 環境 1、環境 2 に共通するユーザーを作成
2. 環境 2 にて共有設定を実施
3. 環境 1 にて Qanat Universe エージェントから参照するための設定を実施

### ※注意点

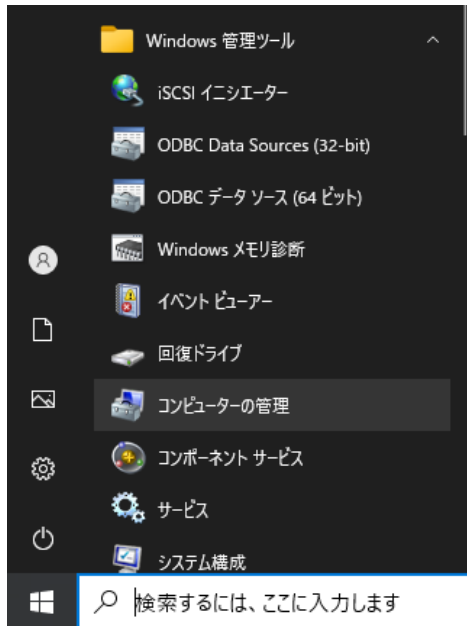
ネットワーク越しのファイル、フォルダに対する操作となるため、ネットワークが原因でのエラーが発生する可能性があります。ネットワークが原因である場合には製品側での対処・回避は難しいため、この点についてご了承いただいたうえで本設定をご利用ください。

## 1. 環境 1、環境 2 に共通するユーザーを作成

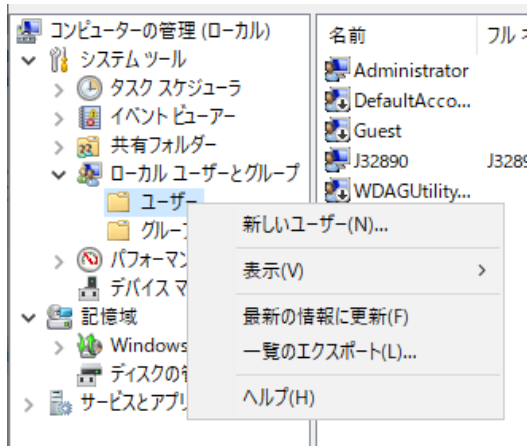
まず環境 1 から環境 2 を参照するための共通のユーザーを作成します。

最初に環境 1 にログインし、手順を実施します。

1. Windows のスタートメニューから「Windows 管理ツール/コンピューターの管理」を選択します。



2. 「システムツール/ローカルユーザーとグループ/ユーザー」の右クリックメニューを開き「新しいユーザー」を選択します。



3. 接続用のユーザーを作成します。

ユーザー名、パスワードの入力と、設定値「ユーザーは次回ログオン時にパスワードの変更が必要」の OFF、「パスワードを無期限にする」を ON にし「作成」ボタンを押し、作成後に「閉じる」を押します。

ここで作成するユーザーと同じ情報で環境 2 にユーザーを作成する必要があるため、本情報は忘れないようご注意ください。

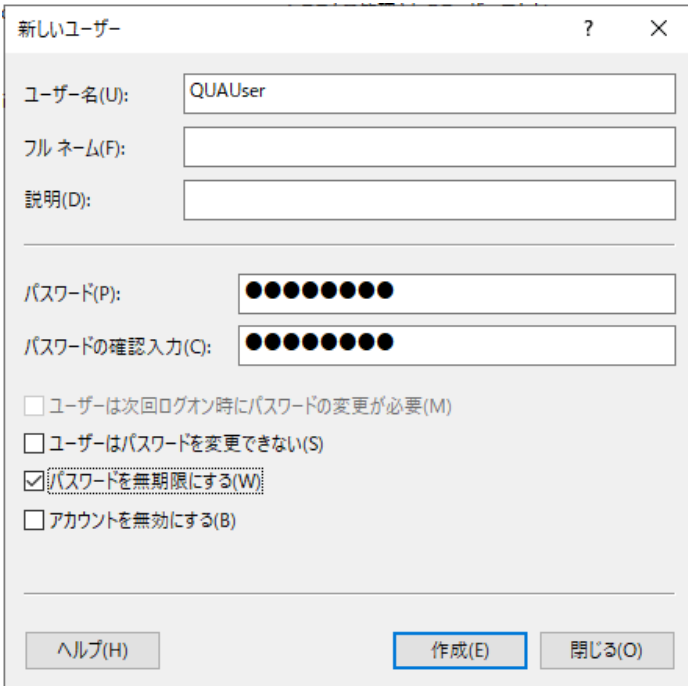
※ここではサンプルとして以下ユーザー名、パスワードで作成します。

ユーザー名、パスワードは適宜変更してください。

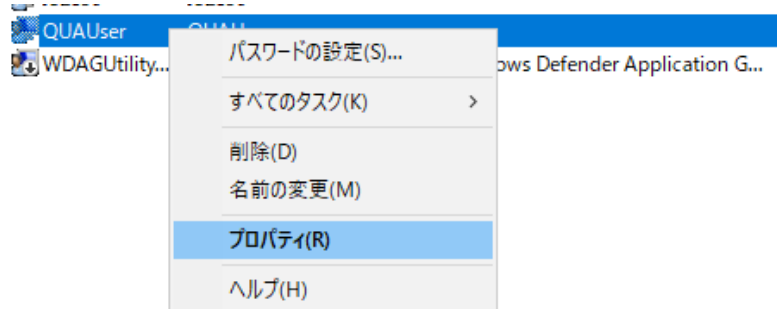
ユーザー名 : QUAUser

パスワード : P@ssw0rd

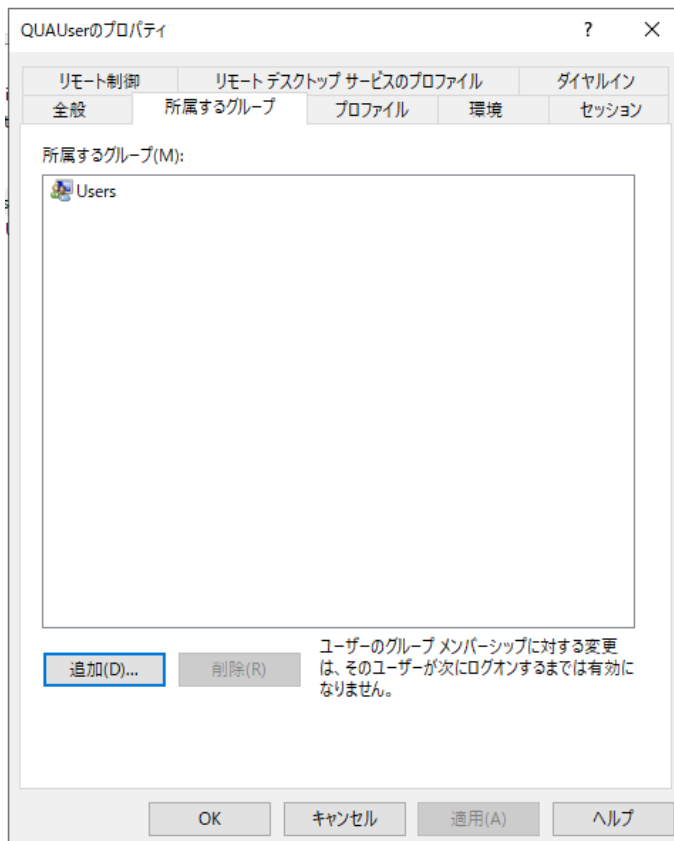
※必要に応じて、フルネーム、説明欄も記述してください。



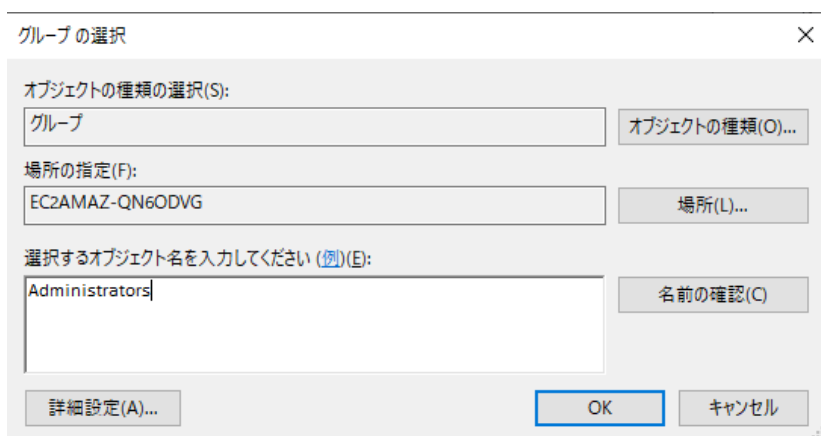
4. 作成したユーザーの右クリックメニューから「プロパティ」を選択します。



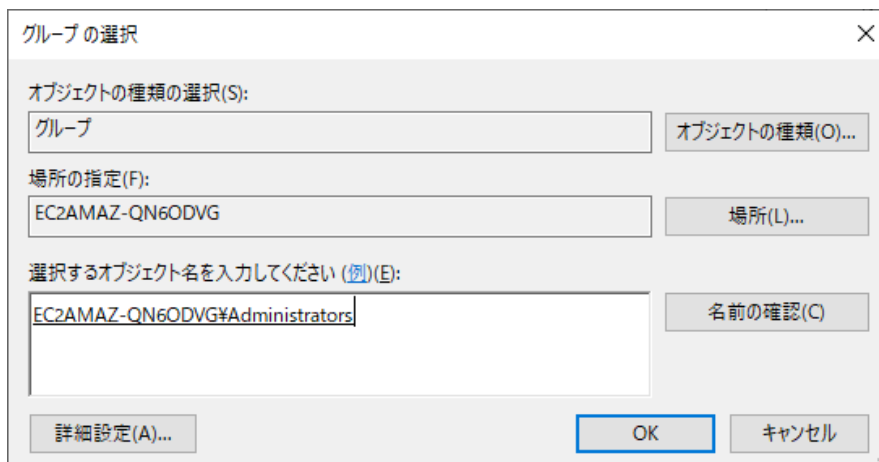
5. タブ「所属するグループ」を選択し、「追加」ボタンを押します。



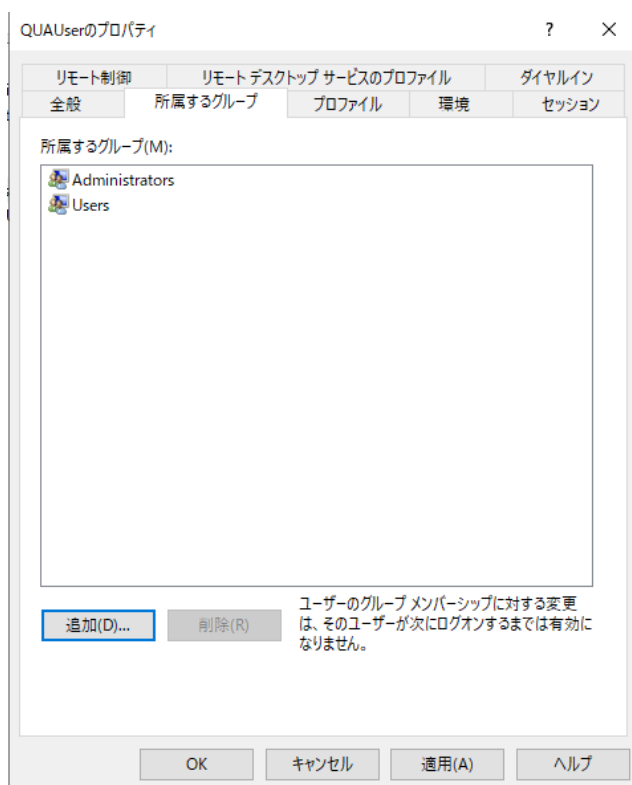
6. 表示されたダイアログにて「Administrators」と入力し、「名前の確認」ボタンを押します。



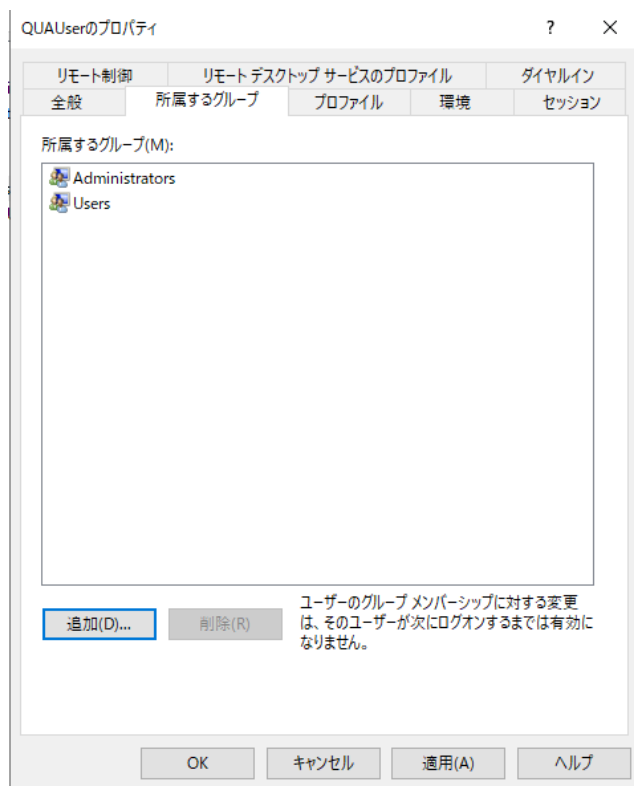
7. グループが見つかったこと（入力欄の表示が変わったこと）を確認し、「OK」ボタンを押します。



8. 入力した「Administrators」グループが作成した QUAUser に追加されたことを確認し、「適用」ボタンを押し、「OK」ボタンを押して閉じます。



9. 本項「環境 1、環境 2 に共通するユーザーを作成」の手順 1. ～ 8. を、環境 2 においても実施します。



環境 1、環境 2 に同じ情報をもつユーザーが作成できたら本項は完了となります。

## 2. 環境 2 にて共有設定を実施

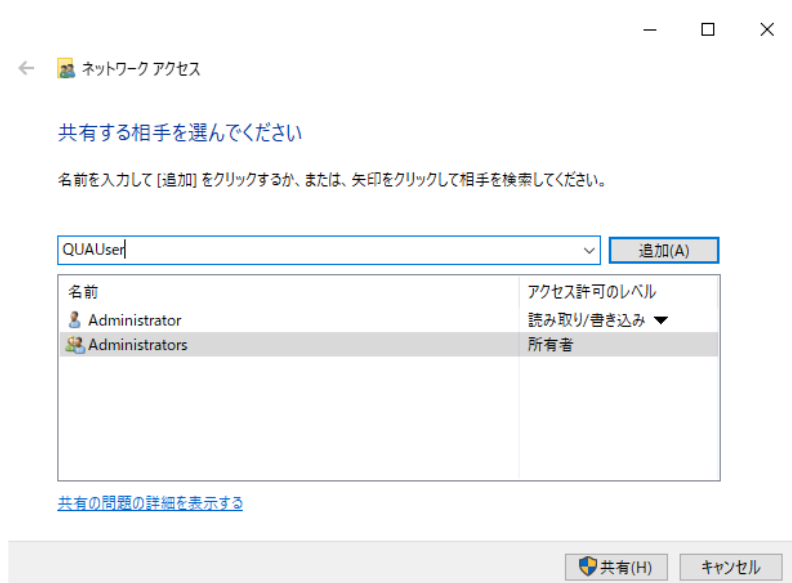
次に、環境 2 にて環境 1 から参照するための設定をおこないます。

1. 環境 2 にログインし、参照先のフォルダの右クリックメニューから「アクセスを許可する/特定のユーザー」を選択します。

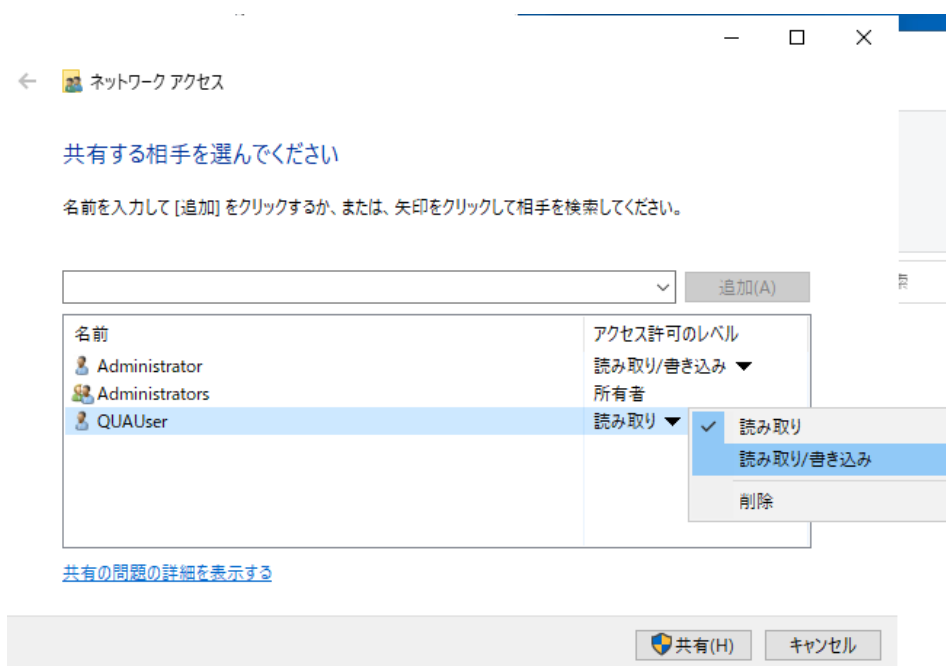
※ここではサンプルとして、参照先フォルダを「C:%tmp」として説明します。



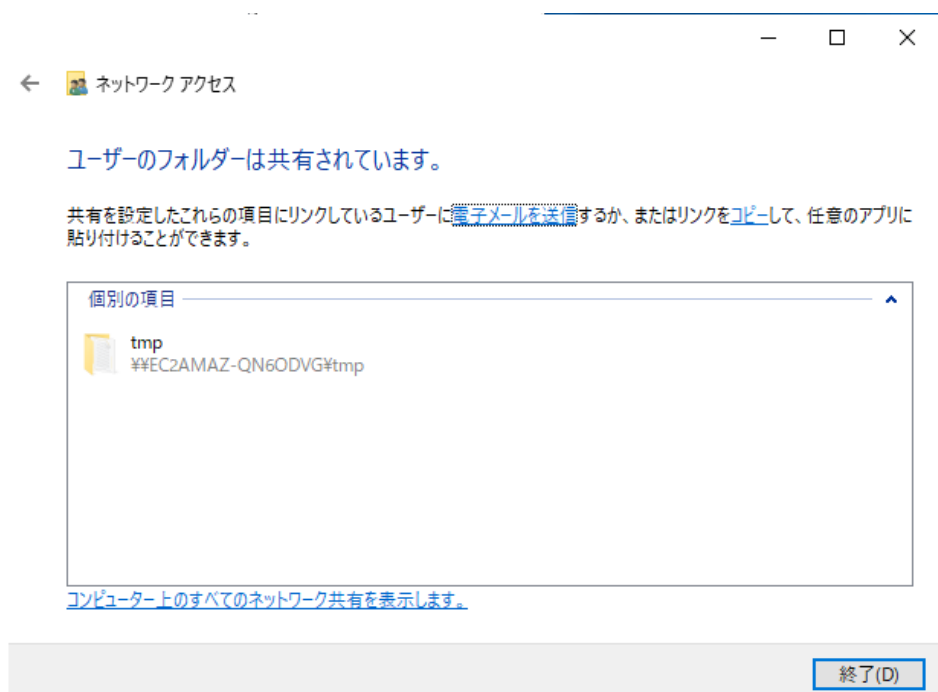
2. 表示されたダイアログにて、作成したユーザー名を入力し「追加」を押します。



3. 追加したユーザーの「アクセス許可のレベル」を「読み取り/書き込み」に変更し、「共有」ボタンを押します。



4. フォルダが共有された旨が表示されたことを確認し、「終了」を押します。

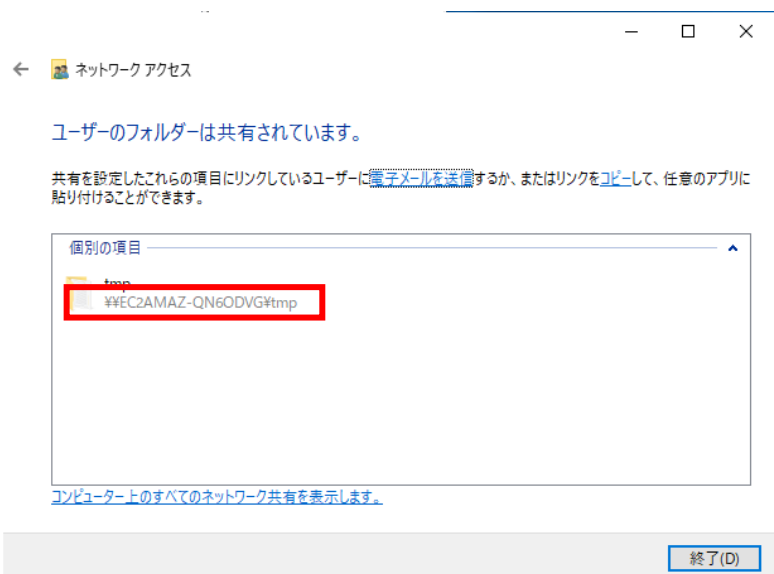


5. 参照ができるかを確認するため、環境 1 にログインしてエクスプローラーより手順 4. で共有設定したフォルダが参照できるかを確認します。手順 4 で表示されたパス値のホスト名部分を IP に変更し、エクスプローラーより参照します。

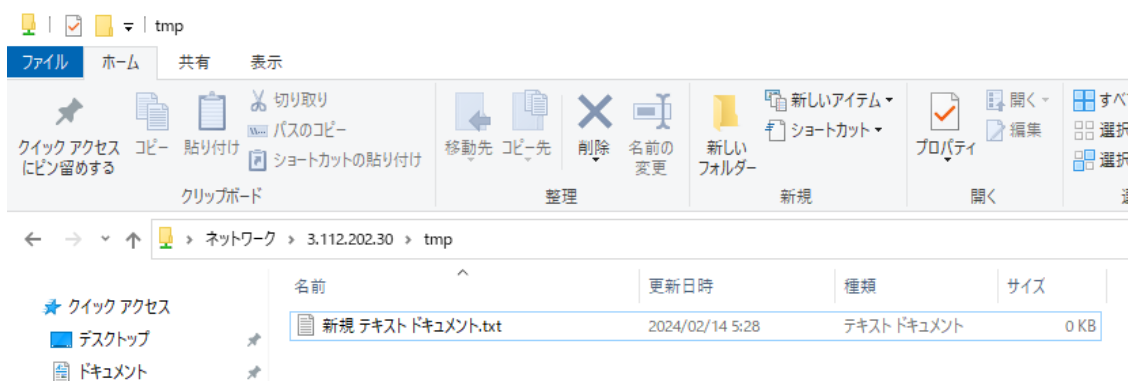
※環境 2 の共有フォルダには、参照できているか確認のためファイルを 1 つ作成します。すでに存在する場合には不要です。

環境 2 の IP : 3.112.202.30

環境 2 で設定したパス



本手順では環境 2 の環境は以下のため、エクスプローラーより「¥¥3.112.202.30¥tmp」と入力することで参照ができます。



参照ができることが確認できたら、本項は完了となります。

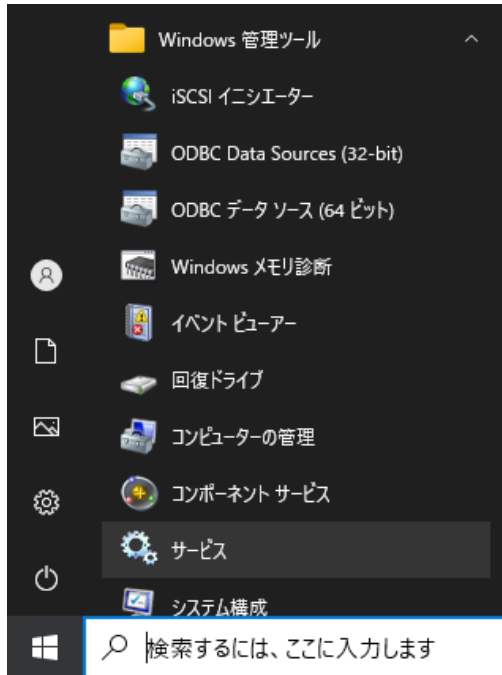
参照できない場合には、環境 2 の Windows ファイアウォール等のセキュリティ設定やネットワーク的な問題がある可能性があります。

ネットワーク的に接続可能であるか、セキュリティ設定等を OFF にし参照可能か等ご確認ください。

### 3. 環境 1 にて Qanat Universe エージェントから参照するための設定を実施

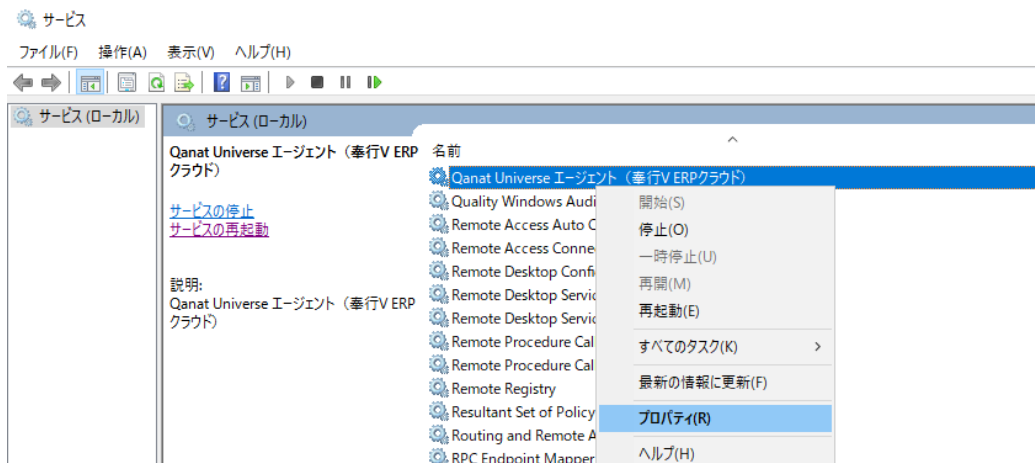
最後に、環境 1 にある Qanat Universe エージェントから環境 2 のフォルダを参照する設定をおこないます。

1. 環境 1 のスタートメニューから「Windows 管理ツール/サービス」を選択します。



2. 表示された Windows サービスから、「Qanat Universe エージェント（奉行 V ERP クラウド）」の右クリックメニューを開き、「プロパティ」を選択します。

※「Qanat Universe Agent Update Service（奉行 V ERP クラウド）」のサービスに対する設定変更は不要です。



3. 開いたダイアログの「ログオン」タブを開き、設定を「アカウント」へ切り替えて「参照」ボタンを押します。

The screenshot shows a dialog box titled '(ローカル コンピューター) Qanat Universe エージェント (奉行V ERPクラウド) のプロパティ'. It has four tabs: '全般', 'ログオン', '回復', and '依存関係'. The 'ログオン' tab is active. Under 'ログオン:', there are two radio buttons: 'ローカル システム アカウント(L)' (unselected) and 'アカウント(T):' (selected). Below the 'アカウント(T):' radio button is an empty text input field with a '参照(B)...' button to its right. Below this are two password fields: 'パスワード(P):' and 'パスワードの確認入力(C):', both containing masked characters (dots).

4. 入力欄に、作成したユーザー名を入力し「名前の確認」ボタンを押します。

The screenshot shows a dialog box titled 'ユーザーの選択'. It has several sections: 'オブジェクトの種類の選択(S):' with a text input field containing 'ユーザー または ビルトイン セキュリティプリンシパル' and a 'オブジェクトの種類(O)...' button; '場所の指定(F):' with a text input field containing 'EC2AMAZ-TQK8CLI' and a '場所(L)...' button; and '選択するオブジェクト名を入力してください (例)(E):' with a text input field containing 'QUAUser' and a '名前の確認(C)' button. At the bottom, there are buttons for '詳細設定(A)...', 'OK', and 'キャンセル'.

5. ユーザーが見つかったこと（入力欄の表示が変わったこと）を確認し、「OK」ボタンを押します。

ユーザーの選択

オブジェクトの種類を選択(S):  
ユーザー または ビルトイン セキュリティプリンシパル    オブジェクトの種類(O)...

場所の指定(F):  
EC2AMAZ-TQK8CLI    場所(L)...

選択するオブジェクト名を入力してください (例)(E):  
EC2AMAZ-TQK8CLI¥QAUUser    名前の確認(C)

詳細設定(A)...    OK    キャンセル

6. 表示されたダイアログにて、パスワード、パスワードの確認入力に入力されている値を削除し、ユーザーに対するパスワードを入力しなおして「適用」ボタンを押し、表示されたダイアログと本ダイアログを「OK」ボタンを押して閉じます。

(ローカル コンピューター) Qanat Universe エージェント (奉行V ERPクラウド) のプロパティ

全般    ログオン    回復    依存関係

ログオン:  
 ローカル システム アカウント(L)  
 デスクトップとの対話をサービスに許可(W)  
 アカウント(T):    ¥QAUUser    参照(B)...

パスワード(P):    ●●●●●●●●

パスワードの確認入力(C):    ●●●●●●●●

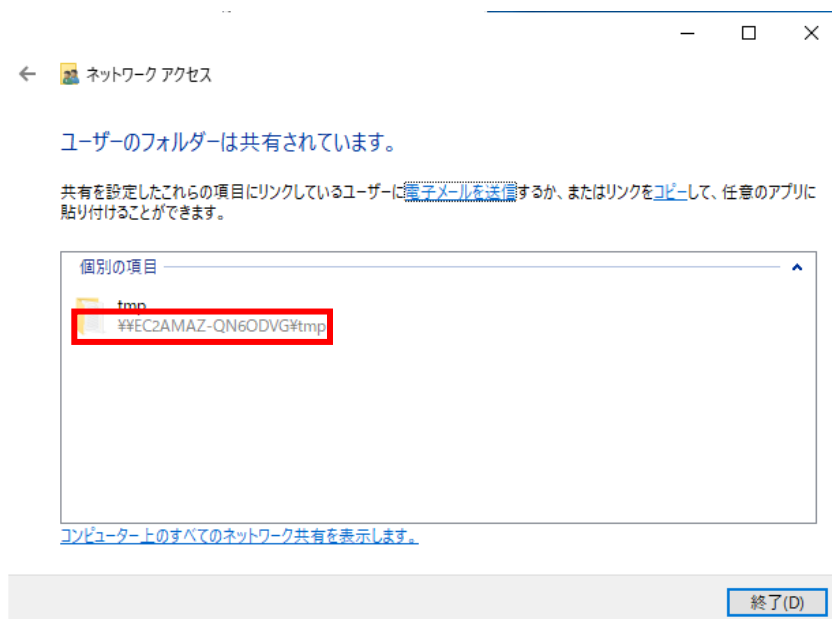
OK    キャンセル    適用(A)

7. Windows のスタートメニューから「Qanat Universe エージェント（奉行 V ERP クラウド）」の設定ツールを開きます。



8. 設定値「ファイルの配置場所」を、環境 2 の共有フォルダのパス値に変更します。その際、ホスト名で指定されている場合には IP での読み替えをおこないます。
- ※ホスト名での名前解決がおこなえないケースがあるためです。
  - ※ここでは例として以下の環境 2 のパス値を利用し説明します。

#### 環境 2 のパス値



## Qanat Universe エージェントでの設定

ホスト名 "EC2AMAZ-QN6ODVG" を環境 2 の IP "3.112.202.30" に読み替えて「ファイルの配置場所」欄に設定をおこないます。

Qanat Universe エージェント (奉行V ERPクラウド)

Qanat Universe エージェント の設定

サービスへの接続設定 (gate)

エージェントID (agentId): qua-0a25ad1f-1398-4749-8ce-XXXXXXXXXX

プロキシホスト名 (proxyHost):

プロキシポート番号 (proxyPort):

既定値

テスト接続

連携対象とするローカルファイルの設定

ファイルの配置場所: ¥¥3.112.202.30¥tmp

参照

適用

9. 「適用」ボタンを押し、ダイアログを閉じます。

以上で本項は完了となります。

Qanat Universe エージェント(奉行 V ERP クラウド) 共有サーバのフォルダを参照するための設定手順書

2025/04 版

JBCC 株式会社

本書は著作権上の保護を受けており、本書の全部あるいは一部に関して、JBCC 株式会社からの文書による許諾を得ず、無断で複写、複製することは禁じられています。また、本書はユーザーへ通知することなく変更される場合があります。